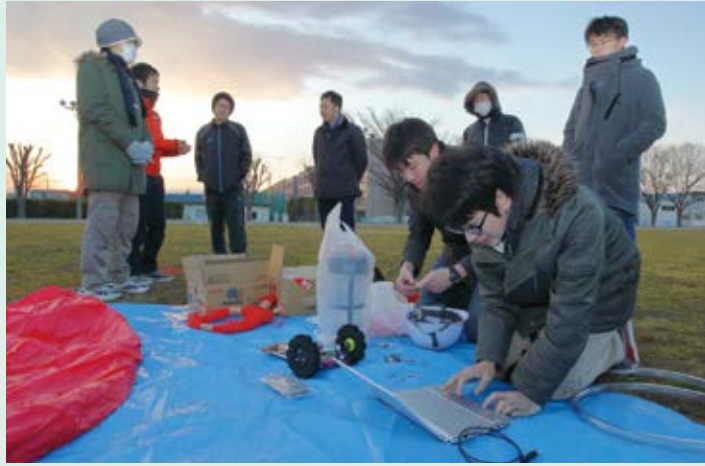


始まったばかりの挑戦 -CIT- 宇宙技術研究会



「Blackcherry」と命名されたローバー

宇宙技術に関心のあった機械工学科の仁木智哉くんが、同じ興味を持つ仲間を募り1年生の時(現在3年生)にサークル「CIT-宇宙技術研究会」を立ち上げました。現在は約30名弱ほどの部員にまで成長。おもな活動としては、宇宙航空研究開発機構(JAXA)が主催する、「種子島ロケットコンテスト」への挑戦です。この大会は高校、高専、大学生を中心にその他、社会人も参加して競われます。エントリーは、ロケット部門とペイロード部門があり、当サークルは昨年に続きペイロード部門での参加です。ペイロード(搭載機器)部門は、CanSat(模擬人工衛星)を気球で高度約50m付近まで上昇させてローバーをパラシュートで投下。遠隔操作を行わず、ローバーに組み込んだコンピューターなどで自走させコーンのある目標地点に到達させるという競技で、国際大会も行われています。写真は、本番を想定した予行演習模様です。早朝6:00から実物のグラウンドで行いましたが、パラシュートとの連結部分の不安が残り、予備ローバーの投下のみで終わりました。

スプリング
SPRING No.108
(日本大学生産工学部だより)
平成 29 年 3 月 22 日発行
編集・発行 日本大学生産工学部 広報委員会

本誌に関する照会その他は下記をお願いします。
〒275-8575 千葉県習志野市泉町 1-2-1 日本大学生産工学部 庶務課
電話 047-474-2201 FAX 047-479-2432
E-mail : cit.info.shomu@nihon-u.ac.jp
<http://www.cit.nihon-u.ac.jp/>

SPRING

- 学部長メッセージ
- 校友会特集
- TOPICS サークル活動・学生 FD が活動開始
- 2016 年の就職状況と 2017 年の展望
- 就職活動体験記
- 学科・系ニュース
- 連載/卒業生インタビュー
日産自動車株式会社 C&A 企画開発部 副本部長 川嶋 則生氏
- 平成 28 年度表彰学生
- CAMPUS NEWS
- 平成 29 年度行事予定



No. 108 日本大学生産工学部
2017 年 3 月 22 日発行



Contents

- 学部長メッセージ……………2～3
- 校友会特集……………4～6
- TOPICS サークル活動・学生FDが活動開始…7
- 2016年の就職状況と2017年の展望…8～9
- 就職活動体験記……………10～12
- 学科・系ニュース……………13～17
- 連載／卒業生インタビュー……………18～19
日産自動車株式会社 C&A 企画開発部 副本部長
川嶋 則生氏
- 平成 28 年度表彰学生……………20～21
- CAMPUS NEWS ……………22
- 平成 29 年度行事予定……………23



表紙
サークル「CIT- 宇宙技術研究会」の種子島ロケットコンテストに向けての予行演習風景

卒業生に贈るお祝いメッセージ

落合 実

学部長
日本大学生産工学部



平成 28 年度学部卒業生ならびに大学院修了生の皆さま卒業・修了誠におめでとうございます。ご家族の皆さまのお慶びもひとしおのことと心よりお慶び申し上げます。

キャンパスライフ

社会に飛び立とうとする皆さん、学部あるいは大学院で過ごしたキャンパスライフはいかがだったでしょうか。

4月1日の開講式、翌日からのオリエンテーション、4月8日には武道館での入学式がありました。その後、大学院では授業を中心とした研究活動が始まり、学会での論文発表や学内講演会での発表、学位論文の作成と成果発表、またTAとしての授業サポート等々、学部生活とは違った毎日を過ごしたのではないのでしょうか。また、学部生は、大学生となって初めて経験する授業の履修登録や講義、学生相互と教員との親睦を目的とした1泊2日のオリエンテーション旅行そして5月のスポーツ大会などの行事、1年次の授業では、実栴と津田沼の2つのキャンパスに通い、前期試験も経験して、後期には大学生としての生活や意識が定着したことと思います。2年生から津田沼キャンパスで専門の基礎科目、3年生では専門応用科目に加えて夏季の生産実習、4年生では卒業研究が思い出されるでしょう。

生産実習では実社会の仕事を体験して、将来の取り組むべき仕事を選択するための情報が得られたことと思います。また、皆さんが特に充実したと感じたのは卒業研究でしょう。自分のテーマに基づいて、実験や調査などのデータを分析し、自分の考えを論文としてまとめると共にその成果を発表するという一連の過程を経験しました。

このように皆さんが努力して学んだ生産工学部のカリキュラムは他大学・他学部には無い特徴あるものです。その特徴は生産実習や経営管理、技術者倫理などの生産工学系科目、そして実験や実習・演習科目が多く設置していることで、これらは実学を重視したカリキュラムとして、課題に対して少人数のグループで取り組み、学生同士そして教員と学生のコミュニケーションを通して社会人としての基礎力を養うものです。

一方、勉学に加えてサークル活動やボランティア活動などに熱心に取り組んだ人も多いと思います。そしてキャンパスでは多くの人々と交流し、一生付き合える友人と出会うことができたものと思います。

本学でキャンパスライフを過ごした皆さんには社会人基礎力が十分備わっていると確信していますので、本学を卒業、修了した誇りと自信を持って社会で羽ばたいてください。

現代そしてこれからの社会

日本は急速な少子高齢化社会となり、生産年齢人口が激減する将来に向けて経済活動、特に産業活動の再興・改革が国の主導で進められています。皆さんが活躍する生産・産業などの関連では、「人材力強化」、「産業強化」が掲げられ、「グローバルに対応できる人材力」、「世界一の技術力」、「ロボットによる産業革命」など、そして昨年には「官民戦略プロジェクト」として「第4次産業革命の実現」が掲げられ、IoT・ビッグデータ・AI・ロボットなどのキーワードが示されています。また、科学技術基本計画では「超スマート社会」(Society 5.0)と称した社会の実現を目指しています。

このような社会は国内外の経済や政治に影響されま

す。皆さんには生産工学部で学んだ基礎力を生かし、グローバルな視点で社会や経済・文化などの情報を収集・分析して、それらを意識した上で、課題に取り組み、社会貢献ができる技術者として活躍されることを期待しています。

生産工学部、日本大学

生産工学部は昭和27(1952)年、工学部(現理工学部)工業経営学科を前身とし、昭和41(1966)年に生産工学部に改組されて現在に至っています。創設以来、経営管理能力を備えた技術者の育成を教育理念とし、産業界に最も近い工学系の学部として産業界の発展に大きく貢献しています。生産工学部は日本に多くの工学部がありますが「生産」を冠とした唯一の学部です。

日本大学は明治22(1889)年に創立された日本法律学校(現法学部)を前身とし、明治36(1903)年に日本大学に改称しています。そして明治政府の初代司法大臣を務めた山田顕義伯爵を学祖と位置付け、「日本精神にもとづき道統をたつとび、自主創造の気風をやしなう」ことなどを目的・使命としています。「自主創造」とは知的好奇心をもって自らが課題に取り組み、新しい道を切り開いていくことです。

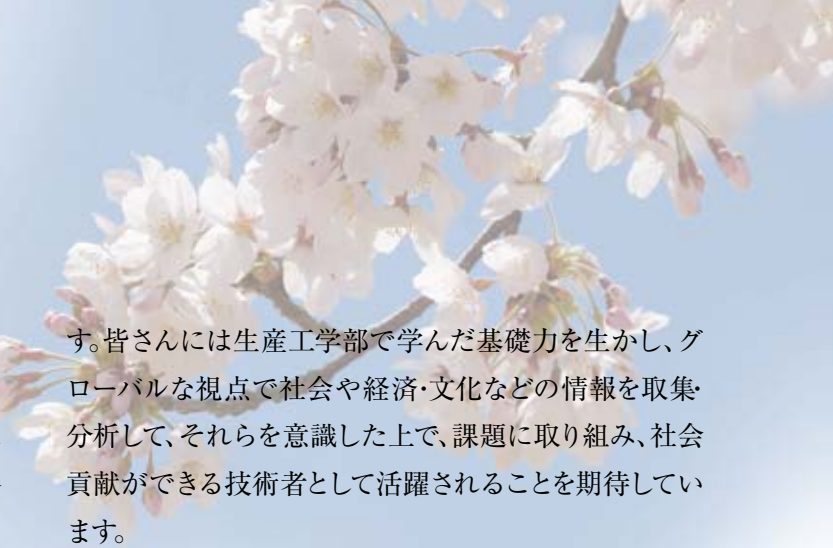
「絆」：日本大学のスケールメリット

日本大学は128年の歴史と約113万人の校友、そして生産工学部は65年の歴史と8万人を超える校友を有しています。そして、日本大学の校友は卒業、修了した皆さんを新しい社会人・校友の仲間として歓迎していますので、今後は多くの校友との「絆」を持って、協同・協働で社会に貢献していただきたいと存じます。

卒業生、修了生にとって生産工学部そして学科・研究室は母校ですので、いつでも訪ねて来てください。その時には在學生に実社会の楽しさなどを語っていただければ幸いです。

日本大学の卒業生・修了生としての誇りと自信を持って世界に羽ばたき活躍されることを心より祈念して「卒業生に贈るメッセージ」といたします。

卒業そして修了おめでとうございます。



高野和雄 生産工学部校友会会長メッセージ



生産工学部
校友会会長
高野 和雄氏

学部生の皆様におかれましては卒業、大学院生の皆様におかれましては修了、誠にありがとうございます。

慣れ親しんだ学び舎を巣立つ気持ちは如何なものでしょうか。寂しさと期待の入り混じった何とも言えない気持ちでいるのではないのでしょうか。

大学を卒業したら、大学院を修了したら、母校との繋がりが無くなると思っているかもしれません。しかし、そんなことはありません。社会には日本大学の卒業生が113万人以上います。生産工学部の卒業生も8万人を超えています。皆さんは社会人になっても日本大学、生産工学部と強い「絆」で繋がっています。ぜひ、この強い「絆」を味方にして下さい。そして、日本大学は2019年に130周年を迎えます。生産工学部も1952年の日本大学工学部工業経営学科設立（東京駿河台）から今年で65周年を迎えます。



生産工学部校友会室がある津田沼校舎1号館

生産工学部の校友会は1959年の「校友と教員の親睦会」が始まりになります。翌年に名称を「桜門工経会」に変更し、正式に校友会が発足しました。その後、1972年に「生産工学部校友会」に名称変更され、現在に至っています。

生産工学部校友会では、入学記念品の贈呈、桜泉祭やサークル活動への援助、卒業生の皆様を学部へ招待する「母校を訪ねる会」の主催、奨学金の給付、機関誌「桜生工」の発刊、卒業生への記念品の贈呈、そして、在校生がより良い学生生活を送るための学部への寄附等、様々な活動をしています。また、毎年6月に代議員総会を開催し、その年の校友会活動について審議をしています。

社会に出ると忙しい日々が始まりますが、時間に余裕ができれば、ぜひ、母校を訪ねて下さい。研究室の先生方も後輩たちも皆様が来るのを楽しみにしています。そして、後輩たちにいろいろなアドバイスをしてあげて下さい。それが、新しい「絆」に繋がります。

皆様のご活躍を心から祈っております。

生産工学部校友会事務局は生産工学部内にありますので、わからないことがあったら、何でも聞いてください。ホームページもあります。

最後になりましたが、長い間、学生たちの生活を支えて下さったご家族の皆様、おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

校友子女入学試験について

大学入学資格を有し、生産工学部への入学を第一希望とする者で、生産工学部が定める資格に該当する校友の子女（2親等内直系血族）である者は、この試験を受けることができます。

なお、詳細については、生産工学部ホームページの入試情報をご覧ください。

<http://www.cit.nihon-u.ac.jp/admission>

日本大学校友会ブラジル支部に関する寄稿文



校友会会員
古賀 拓也氏

2015年にお亡くなりになりました小森元会長のご冥福をお祈り申し上げます。私の小森様、日本大学校

友会ブラジル支部との出会いは、1998年の海外研修生としてのサンパウロ滞在まで遡ります。右も左も分からない国ブラジルでの滞在に不安を感じ、校友会の冊子「絆」にあったブラジル支部にコンタクトをとらせて頂いたことに端を発します。

当時、ブラジル支部の会長を勤めておられた小森様にお手紙を出させて頂きましたところ、到着して一週間後、小森様より会社にお電話をいただき校友会にお誘い頂きました。当時の校友会のメンバーには、サンパウロ大学にて博士課程に在学だった生物資源科学部の荒功一先生がおられ、多くの事を教えて頂きました。

再びブラジル支店に赴任（2009～14年）した際には、深海6500のプロジェクトで訪伯されていた荒先生と再会するとともに、サンパウロ州立大学との共同研究の関係で出張にいられていた、生物資源科学部の伊藤琢也先生にも出逢えたことは大きな喜びでした。

実は、ブラジル支部をとoshita出合いはもう一つありました。ブラジル支部の中心は、移民としてブラジルにわたり、

根を下ろした先輩方です。

ブラジルに海外研修生として滞在するにあたり、私の叔父から会社の同期がブラジルに移住していることを聞かされていました。正直、お会いすることは難しいと思っていましたが、小森様にお誘い頂いた校友会の最初の会で隣に座っていたのが、叔父から紹介してもらった古口先輩でした。そのような縁もあって古口先輩には滞在中の5年間、不安いっぱいであった妻や娘を家族のように受け入れて頂き、たびたびご自宅に招いて頂きました。

ブラジルで最も大切にされる共同体は家族です。校友会の先輩方は、ブラジルという全く異なる社会・環境へと移り住み、日本大学という共通点で繋がることで、家族のような組織を築かれたのだと思います。おそらく厳しい人生を家族には暖かく、質素に誇り高く生きてこられたのだと感じさせられました。

私にとってブラジルという未知の地でのブラジル支部との出逢いは、絆を通じて新たな絆を作ることができた経験でした。今後もこの絆を大事にすると共に、日本大学という「絆」を大切にしていきたいと思います。

VIVA! Brasil!



日本大学校友会ブラジル支部の方々とホームパーティー



日本大学校友会ブラジル支部の旗
（校友会の集まりがあるたびに飾られる）



荒先生がブラジル支部を訪問された際の集まり
（写真左から1人目が古賀、前列左から2人目が荒先生）

日本大学校友会の組織紹介

日本大学は明治22年の創立以来、百二十有余年の歴史を誇るわが国最大の私立大学です。その卒業生は113万人にのぼり、国内外の産業、経済、芸術、スポーツなど様々な分野で活躍しています。

日本大学校友会は、毎年開催される「全国校友大会」や校友会広報誌《絆》、会報誌《桜縁》による情報発信、そして日本大学のスケールメリットを生かす活動拠点「日本大学桜門会館（校友会館）」の運営などをおして、校友の皆様、日本大学の教職員、次の世代を担う在学生の間の絆を深めることを目的に活動を行っています。その組織は下図に示すように、全国に65都道府県支部、16学部別部会、4職域別部会、約80の桜門会、さらに米、

韓国などの8海外特別支部から構成されています。この縦と横に張り巡らされた校友会の組織網は、皆さんが何処に行っても、どのような分野で仕事をする事になっても仲間として受け入れてくれるネットワークがあることを示しています。

日本最大の校友数を誇る日本大学、その卒業生としてのメリットを最大限に活用して、社会人としての武器を手に入れません。詳しい情報や各会の連絡先などの情報が日本大学校友会のHP (<http://www.nihon-u.ac.jp/alumni/>) に掲載されていますので、是非一度アクセスし、自分の後ろにある校友の絆を感じてみてください。

日本大学校友会 (校友会本部事務局)

校友会組織図

都道府県支部 (65 支部)

- 北海道ブロック (札幌、旭川、稚内、小樽、十勝、留萌、苫小牧、網走、釧路)
- 東北ブロック (青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島)
- 関東ブロック (茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、神奈川、川崎、山梨)
- 東京ブロック
 - 東京都第一支部：千代田、中央、港、新宿、文京、台東
 - 東京都第二支部：品川、大田
 - 東京都第三支部：目黒、世田谷
 - 東京都第四支部：渋谷、中野、杉並
 - 東京都第五支部：豊島、北、板橋、練馬
 - 東京都第六支部：墨田、江東、荒川、足立、葛飾、江戸川
 - 東京都第七支部：23区以外の全域
- 東海ブロック (岐阜、静岡、愛知、三重)
- 北信越ブロック (新潟、富山、石川、福井、長野、長野北信)
- 近畿ブロック (滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山)
- 中国ブロック (鳥取、島根、岡山、広島、山口)
- 四国ブロック (徳島、香川、愛媛、高知)
- 九州ブロック (福岡、北九州、佐賀、長崎、佐世保、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄)

学部別部会 (16 部会)

本部・大学院、法、文理、経済、商、芸術、国際、理工、生産工、工、医、歯、松戸歯、生物、薬、通信

職域別部会 (4 部会)

全国桜師会、桜門会計人会、日本大学法曹会、全国桜門スポーツ部会

桜門会

桜門社長会、日本大学税理士桜門会、全国社会保険労務士桜門会、不動産・建設桜門会、日本大学弁理士桜門会、行政書士桜門会など

海外特別支部 (8 支部)

韓国、ブラジル、ロサンゼルス、台湾、サンフランシスコ、スペイン、ニューヨーク、インドネシア

サークル活動 トピックス

私たち柔道部は、津田沼キャンパス7号館の武道館柔道場で、月曜日から木曜日の19時から21時に活動しています。部員数は、男子15名、女子2名、マネージャ女子1名の計18名です。部員の中には、教員を目指すため遅くまで授業を受けている学生や、生活のためにアルバイトをしている学生もいますが、それぞれが時間をやりくりしながら練習をしています。また、大学に入ってから、はじめて柔道をする仲間もいますが、経験者に教えてもらいながら上達しています。

柔道部の1年間は3月下旬にある春合宿からスタートします。日本大学三島高等学校の道場をお借りし、地元の高校生や中学生と一緒に汗を流します。4月になり新入生を迎えた後は、6月に開催される全日本理工科学生柔道優勝大会に向けて練習や試合に励みま

す。この大会は、理工系大学が集まる全国大会で日本大学生産工学部は歴代優勝最多校で、毎年優勝を目標にしている大会です。今年は惜しくも3位でしたが、たくさんのOBの皆様が応援に駆けつけてくれました。

この大会が終わると夏合宿を経て、4年生にとっては引退までの残り少ない期間となります。

今年度の夏合宿はいつも練習している柔道場で行いました。たくさんの先輩にきていただき、新しい技も教えていただきました。また、その後の9月のオール日大では2位、理工学部との交流試合である11月の大澤杯では勝利することができました。

柔道部は、部員同士の仲がいいことが一番の自慢です。また、卒業した先輩方が練習だけではなく、勉強面や生活面、また就職などについても相談のしてくれます。学生時代から社会とつながりを持つこと

ができることはとても貴重だと思います。今後ともご指導・ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



生産工学部版 学生FDが活動開始 しました！

学生が主体となり学びの質の向上を目指す学生FD^{*1}活動への取り組みが、文理学部、国際関係学部へ続き本学部でも始まりました。

本学部では、学生FD活動を『学生FD活動推進プロジェクト』と称し、FD専門委員会(学部委員会組織)の下部組織に置くことで、学生が「発見力」・「発想力」・「発信力」を発揮しながら、学生・教員・職員が『三位一体』となって生産工における学びの機会と環境をより活性化する取り組みを進めています。

今年度の学生FDスタッフは、各学科から推薦された学生と公募により参画した学生の計19名で構成されており、新井洋祐リーダー(機械4年)を中心に、下記の活動が実施されました。

- ファシリテーション研修会(H28.6.18)
- 第1回「しゃべり場」withピアサポーター(H28.7.22)
- 全学学生FD CHAmiTへの参加(H28.12.18)
- 第2回「しゃべり場」with1年生(H29.1.27)

特に、「しゃべり場」*2では、学生FDスタッフがファシリテーター*3となり、『スタートダッシュ充実化計画!』をメインテーマに、第1回で1年生との接点が多いピアサポーター*4から、これまでの学生生活やサポート活動を通して得た、要望、問題点、アドバイス等の情報を収集し、第2回で収集した情報を1年生にフィードバックする2段階の「しゃべり場」を実施しました。

今回の「しゃべり場」から得られた成果は、新たに入学する学生にも活用されることが期待できます。また、日本大学の全学部が一同に参加する「しゃべり場」(=全学学生FD CHAmiT)には、本学から学生11名と教職員4名が参加し、さらに学生FDスタッフの石澤翔太郎君(環境4年)が副代表として、坂本裕菜さん(応化2年)が総司会者として、それぞれ活躍しました。



- *1: FD(ファカルティ・ディベロップメント)とは、学習・教育活動を改善するための組織的な取り組み
- *2: 「しゃべり場」気軽な雰囲気のもと学生同士が各々の立場でのびのびと討論する機会
- *3: 会議やプロジェクトなどの集団活動がスムーズに進むように、また成果が上がるように支援する人
- *4: ピアサポーターとは、1年生全員の生活や修学をサポートする学部4年生・大学院生を中心とした学生



2016年の就職状況と2017年の展望

1 2016年の就職状況

① 2016年の採用選考活動時期の変更に伴う影響と内々定

2016年は企業の採用選考活動開始時期が一昨年の8月から6月に前倒しとなりました。主な理由として「採用選考時期が2か月間と短く学生の負担が大きい」ことがあげられています。本学部では採用選考活動開始時期が2か月早まったことによる影響は出ていないようです。

しかしながら、採用に関わる広報活動が4か月後ろ倒しとなった一昨年の問題点である「内々定辞退の学生が多い」という問題は全国的に改善されていないようです。理由としては、採用選考時期が短くなり各企業の選考日が重なってしまうことと、有名企業・大企業の内々定が中小企業の採用結果より後に出される点などがあげられます（マイナビ・ニュースリリース 2016/9/14 付より）。この点については本学部の学生を採用したいと希望する企業からもよく言われます。内々定は正式な内定とは異なるものの、企業にとっては採用年度の人事計画に大きく関わります。つまり、正式な内定を出す10月1日より前の内々定であって

も企業としては内定に限りなく近いと考えている場合が多いと考えられます。

一方、複数企業の採用試験を受けている学生が多いため、6月から9月にかけて複数の内々定をもらう学生もいます。その場合、その中から一つの企業に絞らなければならないため内々定辞退が発生します。本学では内々定辞退は、辞退する企業に対してメールではなく電話で担当者に直接連絡するように指導しています。その際、内々定辞退を考え直すように言われる場合もあるようです。しかし、学生としてはいろいろ考えた結果であるため気持ちが翻ることはほぼありません。

内々定辞退で問題となるのは内々定が出た時点で企業から誓約書や承諾書のような書類の提出を求められる場合があることです。内々定をもらった企業が第一希望の企業であれば問題ありません。しかし、そうではない場合、第一希望の企業の結果がまだ出ていない段階でそのような書類を提出することは、学生にとって大きな不安の材料となります。内々定の場合、誓約書などの書類を提出した後で辞退したとしても、学生側には法的な責任はなく損害賠償請求などはされないとされています。

す。ただし、10月1日以降の内定後に研修などが開催され、それに出席した後に内定辞退を申し出た場合、企業側に経費が発生しているため経費についての賠償が生じることもありうるということです。この点については内定辞退の理由や研修の程度にもよるものと思われます。よく分からない場合は、学部の就職指導課や学部で開催しているハローワーク出張相談に相談することをお勧めいたします。

② 2016年度の月別内定率

生産工学部の2016年度の月別内定率は図1に示すように2016年12月1日時点で90.1%です。昨年の12月15日での生産工学部の内定率が89.4%なので内定率はほぼ同程度となっています。この状況から2016年度の最終的な就職率は昨年度と同様に100%近い数字になるものと期待できます。一方、文部科学省と厚生労働省が2016年11月に発表した全国の大卒理系の就職内定率は70.7%（2016年10月1日調査時点）でした。昨年度の同月（2014年10月1日調査時点）の全国の大卒理系の内定率よりも1.5ポイントの上昇となっています。また、文系の内定率が71.4%であり昨年度よりも5.5ポイント上昇していることを考えると2016年度の採用状況は全国的に見て良好であると考えられます。学科別で見ても、どの学科も内定率は80%以上でありほとんどの学生が内定を決めている様子が分かります。なお、内定率とは就職希望者に対する内定者の割合のことであり、文部科学省・厚生労働省の定義に基づく値です。

③ 就職先について

2016年3月（2015年度卒業生）の学部卒業生の就職先について、一部上場企業、大企業（従業員数500名以上）、公務員に分けて、それぞれの割合を図2に示します。

これより、一部上場企業と大企業への就職割合は年々増加しています。それらの企業の採用が活発であることに加えて、本学部の学生の就職先に対する考え方が変化してきたものと考えられます。ただし、一部上場企業や大企業がこの先も安定であるかどうかについては現在の社会情勢を考えると確実とはいえません。また、工学系の企業の場合、あまり有名でない企業であっても固有の技術を有しており、専門分野ではトップクラスのシェアを誇る企業であることも少なくありません。本学部では就職先を決めるに当たり、各自十分に企業研究を行い、名前に左右されない就職活動を行ってもらうことを学生には伝えています。

一方、公務員への就職割合は4%であり決して高い数字ではありません。時期がずれていますが日本大学理工学部のデータによれば2015年3月卒業生の公務員の割合は11.6%であり、本学部は理工学部のおよそ1/3です。この傾向はここ数年大きな変化はありません。この理由の一つとして本学部学生の企業選択の方向性があげられます。本学部の「生産工学」という名称からも分かるように経営・管理が理解できる技術者を育成するという観点から、学生は現場に近い技術者として働くことのできる企業を選択する傾向が強いと考えられます。なお、公務員となった卒業生のうち、行政職（技術職）は土木工学科が、専門職（教員）は数情報工学科が他学科に比べて多い傾向にあります。図3に大学院修了者の就職先の割合を示します。学部卒業生よりも一部上場企業と大企業への就職割合が高くなっています。専門性の高い教育・研究を2年間継続したことによる結果と言えるかもしれません。

2 2017年の展望

① 2017年の採用活動時期

2017年の採用活動に関する時期は2016年と同様に実施されることになりました。広報活動は2017年3月1日以降、採用選考活動は2017年6月1日以降、採用内定日は2017年10月1日以降です。2017年の求人状況は、各種報道や来年度の景気が緩やかに回復する見込みであるという予測（例えば、三菱UFJリサーチ＆コンサルティングシンクタンクレポート2016.11.15付より）から2016年と同様に好調であると考えられます。しかし、景気は世界情勢の急激な変化で大きく変わることが考えられます。我が国の経済が危機的な状況に陥った場合、企業としては生き残りをかけてリストラを実行するものと思われる。その一つとして求人数を減少させることもあり得ます。そのような場合でも確実に就職先が確保できるように、学部としては校友とのつながりを常日頃から大切にしていけることが肝要であると考えています。

② 学部の就職支援

本学部では今年も3月1日～3日にかけて「就職セミナー」を開催します。今年は午前・午後の2部制とし、参加企業数を昨年度の約400社から約500社に増やしました。一つの学部でこのように多くの企業が採用のための広報活動の一環として本学部訪れていたことは就職活動を行う学生にとって非常に有利であると考えられます。また、本学部学生は全員、8月から9月にかけて「生産実習」を経験しています。「生産実習」は本質的には職業体験なので、現在、各企業で頻繁に行われるようになった採用活動に近い会社説明を主体としている

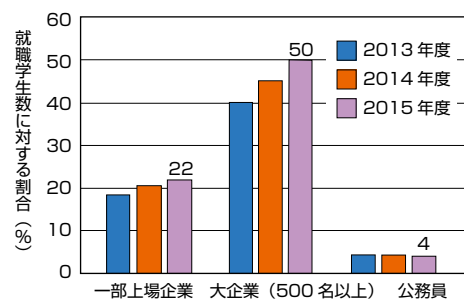


図2 就職先別の就職学生数に対する割合（学部）

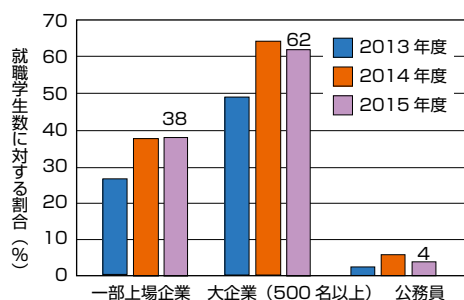


図3 就職先別の就職学生数に対する割合（大学院）

インターンシップとは異なります。しかしながら生産実習先に就職を決めた学生が2015年度は卒業生の約7%であったことを考えると、企業側も「生産実習」を通じて学生を見ていることがうかがえます。このことより実際の就職活動は3年生の8月から始まっていると考えるべきでしょう。特に、第一希望の就職先企業を生産実習先に決めた学生は、生産実習を行うに当たり、より一層の事前勉強と努力が望まれます。

さて、生産工学部では2016年から「プレミアム就職対策講座」を始めました。この講座は学部で実施している無料の支援対策講座よりも内容をグレードアップした講座であり、3月の就職活動が本格化する直前まで行います。特に面接対策講座は小グループでの講座としており、個別面接やグループディスカッションにも対応しているため効果が期待できます。生産工学部では第一希望の就職先からの内定が実現できるように、2017年度も全教職員をあげて就職支援を行ってまいります。

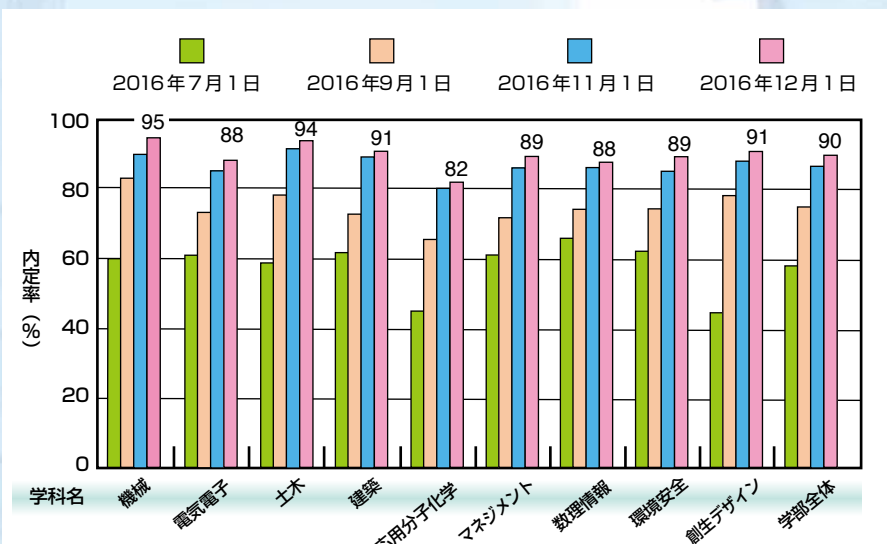


図1 学科別内定率

機 械 工 学 科

物怖じしないで
堂々とするこ4 年 尾方 茉莉佳
(株式会社クボタ 内定)

私は就職活動中に1つ決めていたことがあります。それは何なのかというと、就職活動中は様々な会社説明会や就職セミナーに積極的に参加しましたが、その企業に対し必ず質問をするということです。何のためにそのような事をしていたのかというと、大きく分けて二つの理由があります。

第一の理由は、企業研究を行うことにより、その企業に対し、自分では曖昧となっていた業種あるいは職種にも興味を持てるようになりました。その結果、質問内容も充実し、興味が持て

ない業種、職種は排斥され、その分、興味ある業種の企業への志望度が高まることとなりました。そうして次第に就職先の業種などの選択が行われて行きました。

実際、私は上記機械メーカーに絞ることができ、無事、内定を頂きました。

第二の理由として、ライバルである周りの就活生の前で堂々と質問する経験を重ねることで、物怖じしない習慣が身に付くことです。これは普段から、授業での質問などでの経験が大いに役立っています。ある経験では、合同会社説明会に参加し、私以外の全員が国立の学生でした。すごく緊張しましたが、物怖じしないで質疑し、就職採用担当者から良い評価が得られたと感じています。同様に、他の面接の際にも、的確に受け答えをすることが出来ました。

私が考える日大生産工生の強みは、明るさと物怖じしないことであると思います。面接では、大きな声で元気よく、堂々と受け答えることが何よりの自己PRだと考えているので是非実践してみてください。

電 気 電 子 工 学 科



早めの準備が成功への道

4 年 伊本 聖史
(日本電設工業株式会社 内定)

僕は、3年次の生産実習で就職を意識し始めました。実習先は鉄道の信号設備を施工している職人さんの仕事で、実際に職業を体験したことによって、具体的なイメージを持つことができました。また、今年の就職活動は短期決戦と言われているので準備を早めに始めました。

10月から自己分析を始め、自分が何の仕事がしたいのか長所と短所は何かをじっくり時間をかけて分析をし、1月までにやりたい仕事を明確にして業界を絞りました。また、3月の学部主催の企業説明会では、絞っていた建設業界のお話を伺い

しました。内定を頂いた日本電設工業株式会社では学部主催の企業説明会でお話を聞いていたので、3月に適性検査と筆記試験と1次面接を行い4月に最終面接を行い、内々定を頂きました。

就職活動において心がけていたことは、第一印象を大切にしていたことです。やはり、どんな仕事をしていく上でも第一印象が悪いのは良くないと思うので常に第一印象は「明るく、元気に」を意識していました。

面接では、聞かれるであろう質問に対しての答えを文章で考えないことです。面接は必ず緊張するものなので、考えていた文章が飛んでしまったら何も受け答えが出来なくなってしまい印象が悪くありません。文章ではなく伝えたい言葉だけ覚えておき、その場で考え話したほうがいいと思います。

就職活動では知らなかったは通用しません。したがって、就活用の手帳を用意するなどしてスケジュールや提出書類などの管理はしっかりして「分からなかった」や「知らなかった」を無くして悔いのない就職活動にしてください。

早めの準備をすることで自信を持って就活ができ、先生やセミナーの話には必ずヒントがありますので頑張ってください。

土 木 工 学 科



知らないことを知る！

4 年 山岸 幸一郎
(大成建設株式会社 内定)

私が就職活動の中で感じた自分の強みは「行動力」です。ある建設会社の所長さんに、自分の知らない情報を自分の足を運んで知るという事はとても重要なことだと教わったのですが、就職活動期間中それを強く感じました。私はリクルートサイトや就活情報雑誌に目を通してだけでなく、実際にいくつかの建設業の説明会や現場見学会に参加しました。そこでいろいろな職種の方から情報収集し、手帳にまとめ自分なりの分析をすることで自分の考え方が纏まりました。

私が建設業を志望したきっかけの一つは、就職活動中に実際に建設会社の施工現場を見学させていただいたときに感じ

た、現場の雰囲気と人の暖かさでした。これは企業のホームページや写真などからでは得られない感覚でした。自分の気になった企業に実際に足を運び、その企業の特徴を知り、比較し、他人に伝えることができるという事がとても大事なことだと思います。

採用面接の際に、自己PRをする機会が幾度となくあり、その中で、高校時代の部活や大学在学中に取り組んでいたサークルなど体力面ではとても粘り強いなどをPRしましたが、現時点で感じる就職活動を成功させるポイントは「行動力」だと思います。知らないことを知ることで、その会社がどういう採用方法であるのか、エントリーシートの書き方、試験対策、面接対策なども含め早めに対策することができました。しかし、上記の中でも失敗することもあり、そこで心がけたことは、自信過剰になりすぎないことです。

さらに、私が就職活動の中で心がけていたことは「チャンスがあるなら挑戦する」ということです。このことを心がけていなければ私は第一志望の会社に内定をもらってなかったと思います。たとえ最大手企業だからといって無理だなんて思わず、チャンスがあるのであれば、挑戦してみることをお勧めします。

建 築 工 学 科



早期準備・早期行動！

4 年 矢野 杏奈
(大和ハウス工業株式会社 内定)

「準備・行動を早期から行ったこと、職種を絞ったこと」が、就職活動の成功に繋がったと、私は思います。

まず、夏の必修科目である生産実習で、将来どのようなことをしていきたいのかという基盤を固めました。そして夏から秋にかけては自己研究をしました。自分の強み・弱みをしっかりと把握することで、より将来像を明確にでき、就職活動への意欲が高めることが出来たと思います。また、同時進行でポートフォリオづくりをしていました。そして、3月のエントリー開始の1か月前半の1月中旬から、本格的に就職活

動を始めました。本格的にというと、2～5日間程の冬のインターンに参加しました。エントリー直前のインターンなので、各企業の雰囲気を先取って知ることが出来たり、人事の方に顔を覚えてもらえたりと、就職活動において有利なことが多かったため出来るだけ参加するべきだと思います。

面接対策に関しては、主に就活サイトを活用しました。どのような質問を受けたのか・どのような面接形式だったかを調べ、面接の練習を繰り返し行いました。受け答えは、明るくはっきりと面接官に目を見て笑顔で答えるように常に心がけました。加えて、スーツ・靴が汚れていないかなどの身だしなみにも十分注意しました。また、志望する企業をある程度絞っていたため、より時間をかけて一つの企業を深く企業研究をすることができ、面接の際に企業についてどのくらい知識があるのか聞かれた際にも、余裕と自信を持って答えることが出来ました。

就職活動は、大学4年間の集大成です。後悔のない就職先を手に入れるためにも、しっかりと準備をし、出来るだけ早く行動に移すことが最も大切だと思います。頑張ってください。

応 用 分 子 化 学 科

本気になって納得いくまで
やりきる4 年 島 綾佳
(株式会社サクラクレパス 内定)

私は周りが就活を始めだす12月になってもふわふわと将来の方向性も決まらず、なんとも中途半端なまま3月を迎えました。自己分析をしても自分の長所でなく短所ばかり見つけてしまい落ち込んでいたし、大学時代に頑張ったエピソードもないし、果たしてこんな私でも内定はいただけるのかと不安しかありませんでした。

しかし、ある時、このまま何も頑張らずなんとなくのまま大学生活を終わらせても後悔はないだろうかと思いました。就職活動を行う期間は数か月程度です。それに気がついた時

に「一生の何十年にたった数か月ならやりきれん」と思いました。そこからは、遅れを取り戻すかのように就活に励みました。

将来の方向性が決まらないならいろいろと見てみようと思つた。100社ほど行い、様々な種類の企業の説明会に参加しました。1日数社伺ったこともあります。説明会には前日に質問や疑問点を書き出した上で足を運び、積極的に質問をしました。面接がある日は企業の会社情報を聞かれたときに答えられるように向かう電車で何回もパンフレットやHPを確認しました。空き時間を見つけた時はエントリーシートを記入したり面接で聞かれることの多い質問を調べたり考えたり、人に聞いたりして自分なりの答えをあらかじめノートにまとめておきました。

終わった今だから言えることかもしれませんが、無我夢中でやっていたら終わっていたという印象です。就活は自分が納得いくことが最も大切でそれが出来れば、結果はついてくるものだという風に私は思っています。周りの反応や進み具合は気にせず、大学生活で頑張ったエピソードがない人こそ納得いくまで就活をやりきってください。

マ ネ ジ メ ン ト 工 学 科

「なりたくない自分」を行動の
エネルギーとし希望先への内
定を実現4 年 齋藤 柊一
(株式会社船井総合研究所 内定)

IT企業を中心に就活をしていましたが、インターンシップがきっかけとなり、コンサルティング業界を目指すことにしました。就活の際に、大切にすることは、「なりたくない自分を明確にする」、「実際に行動する」、「修正する」ことでした。

私が、まず大切にすることは、「こうなりたくないと思う自分と、こうはなりたくないと思う自分を想像する」ことで意識を変えたことです。なりたくない自分を想像して行動することで就活に対するモチベーションを上げ、なりたくない自分を想像することで就活から怠けている自分に“活を入れる”ことが出来ました。この意識

付けによって次の行動力へ結びつきました。

次に大切なことは、「実際に行動する事」でした。3年生の夏にインターンシップに参加し、そこから就活を始めました。

ベンチャー企業のインターンシップだったこともあり、参加後すぐに就職面接が始まりました。3次面接までは行けたものの、内定は頂けませんでした。このことがきっかけで就活への意識が変わり、多くの説明会や面接に参加することになりました。

行動した後に大切なことは、「軌道修正をする」ことでした。私の場合は、就活を始める前と、インターンシップを行った後、初めて内定をもらった後でなりたくない自分が少しずつ変わっていききました。それに合わせて就活のスケジュールや希望業種を変えるなど対応していききました。最終的には自分が最も納得できる職種に就くことができました。

私が大切だと考える3つのことを行うことで、自分が何を望み、何をしていきたいのかを見つけることが出来ました。このことが、船井総合研究所を含め7社から内定を頂くことができた要因になったと思います。私にとって、特に、「こうはなりたくないと思う自分を想像」したことにより、危機感と焦りを実感することができ行動に繋がったと思います。

数 理 情 報 工 学 科



就活は過去と今と未来を繋ぐもの

4 年 三好 佳代子
(大日本印刷株式会社 内定)

就活でよく問われる「学生時代に努力したこと」とは、何をやってきたかを答えるものではありません。一番重要なことは、経験したことから何を学んだか、それが今の自分にどう繋がっているか、また、それを会社でどう活かしていきたいかという考えをしっかりと持つことです。

私は、今まで人に自慢できるほど大層な経験をしてきたわけではありませんでした。そのため、まずは経験してきたことを思い起こし、小さな経験から何を学んだかを考えることにしました。しかし、自分だけでは客観的な視点に立てず、なかなか

良い文章が書けませんでした。そこで、母に自分の学生時代の話を聞くことにしました。母と一緒に考えていくうちに、自分が見えていなかった一面を発見することができました。今まで自分だけで解決しようとしていましたが、就活を通して、人を頼って素直に意見を聞き入れることも大切であるということがわかりました。

就活を始めたときはゲーム会社で働いてみたいという気持ちがあり、何社か面接を受けましたが、どんなゲームを作りたいか聞かれたとき、言葉に詰まってしまいました。そのとき、ゲーム会社には自分がやりたいことがないのかもしれないと思うようになりました。そして、一から自分に合う会社を探し直し、見つけたのが印刷業界でした。

それまではあまりよく知らない業界でしたが、会社説明会に行き、仕事内容や会社の雰囲気を知るうちに、ここで働きたいと思うようになりました。このように、就活が進むにつれて、自分がやりたいことは何なのか、今受けている会社が自分に合っているのか迷うこともあるかもしれません。そのときは一度立ち止まって自分を見つめ直すことが未来に繋がっていくと思います。

環 境 安 全 工 学 科



生産実習で学んだ対話力と聴く力

4 年 岡澤 春香
(日本総合住生活株式会社 内定)

私が就職活動において大切にしていたことは、人との繋がりでした。コミュニケーション能力は社会人として、多くの場面で必要とされる能力といわれています。私は自分の強みである「対話力」を活かして、様々な方々と対話をし、就職活動に取り組んできました。

生産実習では今までの学生生活の中で接することがなかった多くの方々とお話をする機会があり、そこで対話力の大切さを学ぶことが出来ました。緊張から、聞きたいことが上手に言葉にできないこともありましたが、熱意を伝えることはできたの

で、人事の方に印象深く覚えていただくことができました。また、同じ生産実習に取り組む学生や社員の皆様と多く対話することで自分の視野をさらに広げることが出来ました。その甲斐あってか生産実習先である企業に就職することができたので、対話力で内定に繋げることができたのかなと思います。

就職活動では、本格的に自己分析、企業研究、また説明会への参加などに取り組んだのは2月頃からでした。この時期はいろいろとスケジュールも重なってしまうこともあり、就職活動が軌道に乗らないこともありましたが、しかし、熱心にアプローチすれば企業の方はそれに応えてくださりました。最終的には、対話力を通じて得た会社の雰囲気が自分に合っていると感じた生産実習先に就職を決めました。

コミュニケーションを取ることが苦手な場合は、相手の話を傾聴するだけでも、相手には熱心に話を聞いていることが伝わるはずで、まずは視野を広げ、話を聞くことから始めてみましょう。気になることやお話ししたいことがあれば、いろいろな方々とどんどん対話するのが良いと思います。

皆様のご健闘をお祈り申し上げます。

創 生 デ ザ イ ン 学 科



何でもないことを特別なものとして捉える

4 年 吉田 香織
(キヤノン株式会社 総合デザインセンター 内定)

私は4年間、勉強に手を抜きませんでしたでしたが、その上で積極的にいろいろな経験をしようと常に心がけてきました。大学の授業では製図演習、デッサン、人間工学など、デザインを様々な視点から横断的に学ぶことができたため、1つの分野に考えが固まることなく、就職活動においても様々な分野の企業に挑戦できる状態にあり、有利に働いたと思います。勉強以外の活動では、一見何の役にも立たないと思われがちなこと、4年間でしかできない貴重な経験だと捉えて取り組みました。例を挙げると、アルバイトと旅行です。2つとも大学

生の誰もが当たり前のようになっていることですが、捉え方で自分の強みになります。アルバイトは、10か所ほど経験しました。1つのアルバイトを長く続ける方が良いという意見もあるとは思いますが、しかしながら、社会人になるとなかなか職種を変えられない分、学生のうちに多くの業界で楽しみ、働かなければわからないことを知りたいという思いが強かったのです。お金のためだけではなく、自分のためになることをとても意識しました。体験が教養となるようにしっかり取り組みました。大変でしたが、掛け持ちしながらも途切れることなく続けました。旅行も細かな行程もすべて自分で計画を立て、アルバイトの費用で賄いました。この体験は、小さな努力を重ねる事で大きなことを達成することが可能だと実感しました。また、この話は就職活動の面接でよく話題にしたことで自己アピールをする1つの大切な要素となりました。

このように、一見何のアピールにもならないようなことでも積み重ねていくと、自分の武器になることが伝わったかと思えます。これらの勉強以外の経験と、大学の専門分野のデザインに関わる横断的な知識を組み合わせると、他にはない、オリジナルの自分を持っていることが強みになったと思います。

学 科 ・ 系 ニ ュ ー ス

機 械 工 学 科

学会等で多くの学生が受賞

今年も学生たちは国内外の学会等で研究成果を発表し、評価されました。また、生産工学部主催の風力発電コンペでも機械工学科から多数のチームが参加し、3チームが受賞しました。受賞記録の一部を表にご紹介します。教員も時末光名誉教授が平成28年春の叙勲で瑞宝中綬章を受章されたのをはじめ、氏家教授が日本機械学会エンジンシステム部門で研究業績賞を、景山教授、網島教授、栗谷川准教授が自動車技術会でそれぞれ表彰されました。また、加藤数良教授が平成29年1月27日にご退職され、最終講義では多くの在学生・卒業生も聴講するなか、これまでの教員生活を振り返られました。

学生／チーム名	学年	受賞名
西原 淳夫	D3	日本伝熱学会技術賞
小熊 広之	D2	The 10th Asian-Australasian Conference on Composite Materials・Best Presentation Award
野澤 郁丸	M2	日本人間工学会第7回大会・優秀研究発表奨励賞
加藤 千晶	M1	第25回微粒化シンポジウム・優秀講演賞
上西 陵太	M2	第49回学術講演会・優秀学生発表賞(口頭発表)
野島 悠	M1	第49回学術講演会・優秀学生発表賞(口頭発表)
松丸 和誉	M1	第49回学術講演会・優秀学生発表賞(ポスター発表)
阿部 翔一	M1	第49回学術講演会・優秀学生発表賞(ポスター発表)
勝田 桂輔	M1	第49回学術講演会・優秀学生発表賞(ポスター発表)
本間 佳史	M1	第49回学術講演会・優秀学生発表賞(ポスター発表)
野崎 利博	M1	第49回学術講演会・優秀学生発表賞(ポスター発表)
シュベールト	B3	風力発電コンペ WINCOM2016・優秀賞
ナボレオン1号	B4	風力発電コンペ WINCOM2016・アイデア賞
ツインシュミット	M1	風力発電コンペ WINCOM2016・交友会賞

学科推奨サークルの活躍

機械工学科では、津田沼航空研究会、フォーミュラJSAE、CIT-宇宙技術研究会といった技術系サークルを応援しています。今年も津田沼航空研究会は「鳥人間コンテスト2016」滑空機部門に出場、CIT-宇宙技術研究会は昨年に引き続きJAXA種子島ロケットコンテストへの出場が決まり、準備を進めています。特にすばらしい活躍だったのはフォーミュラJSAEです。第14回全日本学生フォーミュラ大会で、出場総数106大学(国内75、海外31)のうち昨年度の総合78位から大きくジャンプアップし、総合成績22位を獲得、大健闘しました。

その他、機械工学科のホームページ(<http://www.me.cit.nihon-u.ac.jp/>)にて様々なニュースが紹介されていますので、ご興味のある方はそちらもご覧ください。

卒業後、修了後の益々のご活躍を機械工学科教職員一同、お祈り申し上げます。



電 気 電 子 工 学 科

水戸大貴君 第三種電気主任技術者に合格

4年(クリエイティブエンジニアリングコース)水戸大貴君が、平成28年度 第三種電気主任技術者試験に合格しました。



電気主任技術者は、発電所や変電所、工場、ビルなどの受電設備や配線などの電気設備の保安監督者としておくことが義務付けられている技術責任者です。そのため、社会的に評価の高い資格です。電気主任技術者には取り扱うことができる電圧によって、第一種から第三種までの資格があります。第三種電気主任技術者が取り扱うことができる電圧は50kV以下で、このような電気設備は数多くあるために、多くの活躍する場があります。



章 偉 君 FIT2016 奨励賞を受賞

FIT2016(第15回情報科学技術フォーラム、共催：電子情報通信学会、情報処理学会)で、霜山研究室大学院生(留学生)の章偉君が奨励賞を受賞しました。

論文のタイトルは「ウェアラブル高機能聴覚支援システムに関する研究」で、全く聞こえない聴覚障害者に音源の方向を知らせるためのシステム構築について述べたもので、次のような特徴を持っています。(1)Wearable、(2)両耳間時間差を利用するメンブクロウの音源定位の聴覚メカニズムを模擬、(3)パイプレータの振動で音源方向を伝える、(4)FPGAモジュールを用いた高速演算処理、(5)2個のイヤマイクが頭部とともに動くため、動的に音の前後検出が可能。

このシステムを使用すれば、被験者は約2～3秒で、側方や後方にある様々な音質(呼びかけ、バイクや自動車の走行音)の音の方向に振り向くことができます。

土木工学科

土木研究所と連携協定を結ぶ！

日本大学生産工学部土木工学科ならびに生産工学研究科土木工学専攻は、平成 28 年 12 月、国立研究開発法人土木研究所と教育・研究に関する連携協力を締結しました。

今後は、土木研究所との連携を深めながら先進的な土木技術の研究・開発をはじめ、次世代を担う人材の交流・育成を一層推進していきます。



キャリア・デザイン教育が2紙に掲載！！

当学科では、学生の実習・就職を卒業生有志が支援する独自の「キャリア支援センター」を設置するとともに、実学に

基づくキャリア・デザイン教育を推進するため、第一線で活躍される技術者、経営者の方々に登壇いただき学生に直接経験談や将来展望をご講義いただく機会を積極的に設けています。平成 28 年 12 月には、これまでご登壇いただいた講師の方々へ感謝状を授与し、これらの取り組みが水道産業新聞(平成 28 年 12 月号)、月刊推進技術(平成 29 年 1 月号)に取り上げられています。

エンジニアリング・デザイン教育が高評価

当学科では、2005 年度より JABEE (日本技術者教育認定機構) の技術者教育認定基準に沿った教育プログラムを構築・運用し、平成 28 年 11 月に 2 度目となる継続審査を受審しました。結果、無事に継続認定を受けるとともに、審査員の方々からは昨今の教育課題であるエンジニアリング・デザイン教育に関して大変優れたプログラムを開発しているとの高評価をいただいています。「ブリッジコンテスト」や「ソイルタワーコンテスト」、さらに「分野横断型 PBL 授業」など、今後も技術と経営を学ぶ生産工学部ならではの先駆的な技術者教育を積極的に展開していきます。



建築工学科

2016 年度日本建築学会技術部門設計競技で佳作入選

2016 年度日本建築学会技術部門設計競技(課題:「木質材料・木質構造の可能性を最大限に引き出す建築」)において、岩田准教授と鎌田専任講師らによる作品『PATCHWORK - 小型 CLT を継ぎ接ぎするフレキシブルな壁構法 -』が佳作入選を果たしました。他のメンバーは、大学院生の岡田遼君と OB の高橋謙太君(共に岩田研究室)です。

本年度の課題では、地球環境への配慮から林業再生と都市の木造化のための規制緩和や新規部材の開発が進められている近年の時勢を背景に、資源循環材料である木材の特性を活かして持続可能な建築物を生み出す実現性の高い新しい木質構造技術や建築システムの提案が求められました。

岩田研究室(計画系)と鎌田研究室(構造系)では、2箇所のそれぞれの研究室の強みを生かし、主にシステム面を岩田研究室が分担し、材料から構造・強度面を鎌田研究室



PATCHWORK

が担当しました。今回の提案では、木質系面材である CLT (Cross Laminated Timber) の利点を様々な規模の建物に展開することを目指しており、国内において比較的中大規模建築物への使用が増加している既存の大型 CLT パネルに代わり、仮設住宅から集合住宅までの小・中規模建築物に対応出来る汎用性の高い構造・構法を目指し、材料の開発から新構法・建材循環システムの提案を行いました。開発のコンセプトは、人力で運搬可能な薄く、軽い CLT パネルを利用した持続可能な建築物の構築です。

今回の応募作品の内容はプロジェクトの全体構想をまとめたもので、入選 7 作品には大手企業チームが名を連ねる中で、数少ない大学チームとして存在感を示しました。



岩田准教授・鎌田専任講師・大学院生の岡田君

応用分子化学科

第 3 回 海水・生活・化学連携シンポジウムにおいて長嶋君と土屋さんがポスター賞を受賞

平成 28 年 10 月 13-14 日に開催された標記のシンポジウムにおいて、学部 4 年生の長嶋恭介君と博士前期課程 1 年の土屋侑子さんがポスター賞を受賞しました。

●長嶋恭介

講演題目:
『高速液体クロマトグラフィーによる多量体 Adiponectin の分別測定』



写真: 長嶋君(右)と朝本 専任講師

●土屋侑子

講演題目:
『ドロマイトの反応晶析における CO₂ 気泡の微細化効果』

第 30 回日本キチン・キトサン学会大会において高木さんがポスター賞を受賞

平成 28 年 8 月 18-19 日に開催された標記の学会において高木美穂さんがポスター賞を受賞しました。

講演題目:
『架橋キトサンビーズによる Cr(VI) イオンの吸着の評価』

第 61 回学長杯・第 28 回 OB 杯争奪英語弁論大会で井上さんが 3 位入賞

本学科 1 年の井上瑛子さんが、標記の英語弁論大会(平成 28 年 10 月 22 日開催)において『Possibilities of Algae』と題した発表を行い、見事 3 位に入賞しました。

津野教授らの研究グループの論文が Eur. J. Inorg. Chem. の Front Cover に選定

本学科の津野教授ならびに Brunner 教授(Universität Regensburg)の研究グループの論文が Eur. J. Inorg. Chem. の Cover picture として採用されました。

ホームカミングデイ

応用分子化学科では、今秋、ホームカミングデイの開催を企画しています。

詳細は随時、学科 HP (www.amc.cit.nihon-u.ac.jp) で発信しますので、是非、ご参加ください。

マネジメント工学科

志の高い留学生が集まって来ています

従来の欧米との研究交流に加え、当学科にはタイや中国、台湾などからグローバルな人材が集まって来ております。彼らにとって最初の授業は難しい日本語での講義になりますが、次第に日本語でも文章を書けるようになり、母国語や英語を含めて 3 か国語を話せるようになります。非常に志の高い学生ばかりで大学院への進学者も多く、今年の 3 月に新たに 2 名が博士後期課程を修了して博士(工学)の学位を取得する予定です。このように毎年、国内や国際会議を含めてグローバルに活発な研究発表をしています。

毎年、恒例となっていますが今年度も 6 月 23 日から 29 日まで、2016 年度日本大学生産工学部と中国科技大学管理學院との交流プログラムが開催されました。中国科技大学管理學院から学生 12 名が来日して、マネジメント工学科の講義や実習、そして事業継承者・企業家育成プログラム Entre-to-Be の授業などを聴講しました。

小串 一貴君が経営情報学会秋季全国研究発表大会で学生優秀発表賞を受賞

学生に関しては、学部生の小串 一貴君が、9 月に経営情報学会秋季全国研究発表大会にて「知識の探索がエゴネット

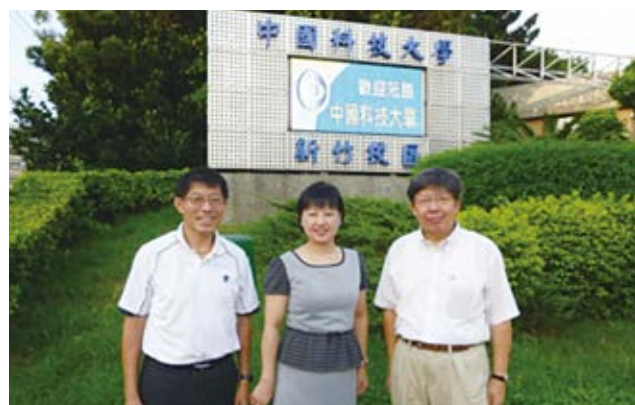
ワーク形成に与える影響 江戸時代の遊学と藩校に関する実証研究」というタイトルで、学生優秀発表賞を受賞しました。

五十部誠一郎教授が海外派遣を終え帰国

五十部誠一郎教授が、7 月から 10 月に米国、台湾・タイ・中国などに 3 か月間、海外派遣研究員として出張され、米国農務省東部研究所や中国科技大学(台湾)等を訪問されました。



学部生の小串 一貴君



五十部教授の中国科技大学管理学院訪問

数理情報工学科

タイで開催された国際会議で大学院生が Best Paper Award を受賞

2016 年 12 月 13 ～ 16 日にタイのチェンマイで開催された国際会議 TSME ICOME2016 で、数理情報工学専攻の大学院 1 年生渡辺君が発表した論文が Best Paper Award (最優秀論文賞、253 編中 15 件が受賞) として選ばれ、指導教員の見坐地先生と一緒に表彰されました。

論文は人体の筋骨格数理モデルによる解析に関するもので、コンピュータ上でスポーツ等人体の運動を解析できることから、各国の研究者から注目を浴びました。



見坐地教授 (左) と渡辺君 (右)



集合写真 (左) シリアスゲーム「BLIND MAZE」(中央)、チーム「KEEL」のリーダー新井君

東京で開催された国際シリアスゲームジャムで学部 3 年生が 3 つの賞を受賞

第 5 回シリアスゲームジャム (主催: 日本デジタルゲーム学会教育 SIG、実行委員長は数理情報工学科の古市教授) が 2016 年 12 月 10 日、11 日の 2 日間、東京・立川で開催され、数理情報工学科から 12 名 (細川研究室、角田研究室、古市研究室所属の 3 年生及び 1 年生に加え、オランダからの留学中の 2 名) が参加し、世界 6 か国の学生及び社会人の皆さんと一緒に 5 本のシリアスゲームを 2 日間で開発しました。

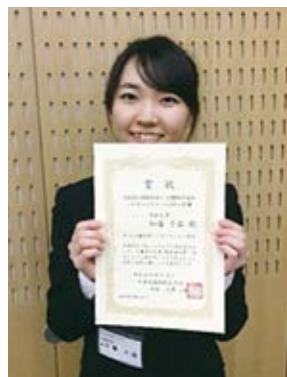
シリアスゲームとは、世の中の様々な課題解決を目的として開発するゲームのことで、今回のテーマは「みんなのバリアフリー」、バリアフリーに対する関心を高めることを目的としたシリアスゲームを開発しました。

数理情報工学科の 12 名は 3 つのチームに分かれて開発を行い、チーム「JABBEST」と「音」はどちらも優秀賞、チーム「KEEL」は特別賞を受賞しました!

環境安全工学科

研究教育活動の成果と学生生活が充実

2016 年 12 月に富山市で開催された第 25 回微粒化シンポジウムにおいて、大学院機械工学専攻 1 年の山崎研究室所属の加藤千晶さん (環境安全工学科平成 28 年 3 月卒) が講演した「FAME 燃料液滴の二次微粒化過程に対するアルコール添加の影響」が微粒化シンポジウム優秀講演賞に選ばれ、表彰されました。



2017 年 1 月に秋濱一弘教授が自動車技術会の JSAE フェローエンジニアに認定されました。JSAE フェローエンジニアは、日本を代表する自動車技術者として、自動車技術に関する広範な総合的知見と極めて高度な専門知識と経験を有し、自動車技術者から目標とされる技術者です。日本最大の学術団体である自動車技術会 (会員数約 51,000 名) において、現在まで 69 名のみが認定されている自動車エンジニアレベルの最高位の資格です。

資格取得に関しては、4 年生の坂本大海くんが 2 級土木施工管理技士試験に合格しました。また、3 年生の五十嵐祐実さんが甲種危険物取扱者試験に合格しました。さらに環境測定分析士 3 級に 3 年生 4 名が合格しました。学科設立当時から重点的に取り組んできた資格対策の環境整備と学生への積極的な受験の啓蒙の成果が着実に実を結んで来ています。

学内行事では、11 月に開催された生産工学部の学部祭「桜泉祭」の神輿部門において、環境安全工学科の神輿が優勝しました。毎年神輿の改良を加えており、昨年惜しくも二位だった白木の神輿造りを模した神輿に、黒光りする漆調の屋根を新調したことが評価されました。毎年各学科からオリジナルの神輿が出展され、大久保商店街を学生がお神輿を担ぎ練り歩き商店街が賑わいます。



創生デザイン学科

航空科学博物館を彩ったクリスマスツリー

創生デザイン学科の 3 年生 7 名 (古藤野雄太、小林高輝、佐藤芽以、鹿海有紀子、高根香菜子、発地昇太、三上春奈) が作成した高さ 3.5m のクリスマスツリーが、千葉県芝山町にある航空科学博物館を彩りました。

厚みのあるダンボールに溝を切り込み、これを互いに組み合わせるだけの簡単な接続方法で組み立てました。各層が互いに逆向きにねじれていることにより、張力が働いて力の釣り合いが保たれるという構造です。設計から施工までの期間はおおよそ 6 週間かかり、放課後の時間もかなり費やしましたが、設計だけでなく、実物を作り上げるという過程で生じる現実的な問題に直面したことが学びの機会となりました。それらを一つ一つ解決した貴重な体験が今後にいかされることでしょう。



桜建デザイン・コンクール 2016 で優秀賞を受賞

空間・形態・構造がひとつになったオブジェ「ストラクチュラル・アート」を提案するコンクールに創生デザイン学科 3 年生の学生 (鈴木優大、鈴木友仁、島田英里子 (数理情報工学専攻)) が出品しました。

日本大学校門建築会が主催となり、日本大学の学生及び卒業生をリーダーとした 3 人以上のチームが参加できるコンペティションです。

提案作品のテーマは「Visualization of feelings」(人の心と構造物) で、6 枚の亚克力プレートを、心の中にある、喜び・憧れ・恐れ・悲しみ・怒り・願いの 6 つの感情に見立て、それぞれの感情が結び合って形が崩れないことが表現されています。76 作品の応募から最優秀賞 1 点、優秀賞 3 点しか選ばれない狭き門でしたが、見事に優秀賞を獲得しました。



教養・基礎科学系

ENGLISH CAFÉ !!

ジョンソン先生を中心として、10 月末から 1 月中旬まで、津田沼キャンパスと実効キャンパスにおいてそれぞれ週 1 回、「ENGLISH CAFÉ」が開催されました。

ENGLISH CAFÉ とは、グローバル人材育成支援の一環として、学生の皆さんに英語によるコミュニケーション力を磨いてもらうために行っている企画です。日常会話の習得、海外留学ならびに海外インターンシップなど、グローバルに活躍することを目指す学生のために開催しています。

第 1 週の 10 月 31 日 (月) および 11 月 1 日 (火) に開催されたハロウィンパーティーでは、「ハロウィンカボチャ」をくりぬいて「ジャック・オー・ランタン」を作成して点灯したり、全身にトイレットペーパーを巻き付けてミイラ作りを競う「マミーラップゲーム」などのゲームを行ったりといった事柄が、英語だけで意思疎通を図ることにより、実施されました。男女合わせて 70 名以上の学生たちが参加し、大いに盛り上がりしました。

最初のうちは英語でコミュニケーションをとることを躊躇していた学生たちも、時が経つにつれ、その日知り合った新しい友人やジョンソン先生に自分から英語で話し掛けるようになっていました!





日産自動車株式会社 グローバルコンバージョン&アクセサリ事業本部 C&A企画開発部 副本部長 川嶋 則生氏

クレームはきちんと対応すれば、
こちらに非があっても「ありがとう」
と言われることが多い。
そしてそれがモチベーションになる。

生産工学部は、学生が中心のキャンパスをめざし、教職員はもちろんのこと多くの方たちがさまざまな形でバックアップしています。

なかでも一段と心強いサポートをしてくださる卒業生の方々を紹介するのがこのコーナーです。今回は日本を代表する自動車メーカーの1つである日産自動車の川嶋則生さんにご登場いただきました。

◆エアラインパイロットの夢を諦め、自動車会社を目指す

中・高生のころ『白い滑走路』というTVドラマを見て、エアラインパイロットに憧れていました。本気で航空大学校を目指しましたが、受験勉強中に視力が低下したこともあって、諦めざるを得ませんでした。

夢が絶たれて冷静になってみると、一級建築士の父は2代目として建築事務所をやっている、自分は長男で建築も嫌いじゃない、当然その選択肢も。改めて父に進路相談をすると、父は「川嶋建築設計事務所をつぶしたくないから俺のあとを追うというのならやめろ。本当に建築をやりたいのなら、もっと大きな仕事をしろ」と格好いいことを言うので

す(笑)。

要するに、建築をやるならゼネコンへ行っ、歴史に残るような建造物を手掛ける、そんな仕事をやれ、と。そんなふうに言われてもう一度冷静に考えてみると、自分がやりた

いのはやっぱり動くもの。つまり自動車。父に相談しなければ、なんとなく建築か土木工学科あたりに行っていたかもしれませんが、父に相談したからこそ機械工学科を選び、その先には自動車会社を見据えていたわけ。そんないきさつがあって、生産工の機械工学科にお世話になりました。

◆邊研究室で鍛えられた真面目な学生時代

学生時代は、授業は無欠席。3年が終わった時点で、4年の必修科目はともかく、ほと

んど卒業の単位は足りている。そんな真面目な学生生活でした。

卒業研究のテーマは「矩形開口を有する薄肉円筒隔の振動実験」。簡単に言うと、繊維強化プラスチックなどのような複合材料の構造物に、こういう穴を開けるとこういう応力が発生する、というようなことを有限要素法で分析し、実験により確認していく研究でした。残念ながら、その後長く続いていく研究が最終的にどういったアウトプットをもたらしたか、ぼく自身は完全にはキャッチアップできていませんが、大学4年のときに邊(吾一)先生の研究室で、その一コマをかり、実験の報告をし学位を取らせていただいたということです。

ただ、担当教授の邊先生はものすごく厳し

【PROFILE】

川嶋 則生 かわしま・のりお 1959年生まれ、神奈川県出身。1983年3月日本大学生産工学部機械工学科卒業。同年4月日産自動車株式会社入社。内装設計部で初代シーマのシート、シートベルト担当を皮切りに、車体設計部ではセドリック、グロリアなどを担当。1995年には商品企画室に移り、以来、セドリック、グロリアなど高級セダンの商品企画にかかわるほか、先行企画グループにて日産初の軽自動車モコの商品開発や電気自動車リーフの投入などに携わり、2011年からグローバル・コンバージョン&アクセサリ事業本部に移り、現在に至る。趣味はドライブ。愛車は、入社当時も今も、スカイライン。



い先生で相当鍛えられたと思います。昨年退職されましたが、送別会に国内外から大挙して集まった教え子たちが「厳しかった」と口をそろえると、「あれがぼくの指導方法。よく君たちはついてきてくれたな」とおっしゃっていました(笑)。当時はみんな「この研究室でつとまれば社会に出てもつとまる」と本気で思っていましたね。

◆念願の日産入社も、早々に挫折を味わって

就職活動は現在では想像がつきませんが、日産から募集がきたのは4年生の9月か10月でした。自動車業界は人気がありましたが、卒は3つで受けられるのは成績上位の3人のみ。幸いぼくは学内で成績が3番でしたので、なんとか選んでもらえました。

日産自動車は、小学校5年生の社会科見学が追浜工場という具合で、ぼくにとってはまさに地元の企業。スカイラインの生みの親、桜井真一郎さんにも憧れていましたから、採用されたときはうれしかったですね。

いざ入社してみると、大学とは違う社会の厳しさを思い知らされました。研修終了後、配属された内装設計で、シート設計が始まりました。

「川嶋、検討図引いて」

検討図っていうのは、例えば、コンソールとシートの際間の断面を切って、レイアウトを検討するわけです。このシートの大きさとちゃんとスライドするだろうか。コンソールボックスやアームレストに当たらないだろうか、と。

隙間が5ミリ、10ミリという図面を引いているわけです。大学で習った機械図面は0.5ミリで引きますが、検討図を機械図面と同じように0.5ミリで引いたら怒られるわけです。0.5ミリの線が2本あったらそれだけで1ミリ以上使ってるじゃないか、と。

習った図学はほんのさわり。仕事の図面になると、ほとんどゼロからのスタートでしたから苦労しました。

◆お客さまの罵声がモチベーションに変わる

入社2年目にも一生忘れられない出来事がありました。

セドリックを使っていたに、三重県のタクシー会社さんから、「運転手が疲れると言っている」という相談が入っていて、シート設計担当のぼくが、話を聞きに行くことになりました。

「日産で一す」と顔を出すと、運転手の方々がワーッと集まってきて(笑)。「シート設計です」って言っているのに、エンジンが…、ワイパーが…と、一斉に不満をぶつけられる。学生るとき教授に怒られるのと、社会人としてお客さまに怒られるのではまるで違います。めちゃくちゃ厳しい邊先生の研究室でやれたんだからどこへ行っても通用するなんて、とんでもない(笑)。精神的にたくましいと思っていたぼくが、実は強くなかった(笑)。これも挫折でした。

ただ、この三重では同時に貴重な体験もしました。お客さまの不満をとにかく全部を聞き、帰社してから社内へ報告書を上げて、すべての不満に回答してもらうことにしました。後日「これはすぐ直します」「これはすぐにはできないので次期型から反映させます」というように、お客さまとは最後までコミュニケーションを取りました。

どの業界でも同じだと思いますが、クレームがあってもきちんと対応すれば、こちらに非があることが多いにもかかわらず、「ありがとう」と言われるんです。そしてそれがモチベーションになる。どんなに罵声を浴びせられようと、それがあから今のぼくがあるんだと思います。

◆日産自動車という会社で自分が企画したクルマを世に出す喜び

三重のようなことがあって、設計から希望を出していた商品企画に異動することができました。それは大変うれしい事でした。な

にしる、ぼくのオリジンは桜井真一郎氏です(笑)、日産自動車で自分が企画したクルマを出すというのが夢でしたから。

商品企画でとりわけ印象に残る仕事は2つあります。1つは、日産で初めての軽自動車を世に出したことです。スズキ自動車さんからOEMで供給していただいたモコですが、プロジェクトを担当させていただきました。今では日産自動車の売り上げの35%が軽自動車です。大げさに言えば、あれがなかったら今の日産はないと思っています。

もう1つは、環境にやさしい電気自動車のリーフ。すでに神奈川や大阪などいろいろなところにタクシーとして入っていますが、そのタクシープロジェクトをやらせてもらいました。

リーフというクルマは、実はタクシーには向かないクルマなんです。ガソリン車は2交代で24時間使えますが、リーフはそのうち数時間は充電に時間を費やす必要があります、航続可能距離がガソリン車に比べると短いので長距離連続走行はご遠慮願います、というようなクルマなんです。それを、環境に少しでも貢献できればと、各地で導入していただいたことは大きいと思います。

◆ぼくの大事にしている信念を受け継いでくれる後輩をもっと

定年まであと2年強。ここ10年ぐらいい振り返ると、めまぐるしいのは自動車技術以外の技術とのコラボレーションがもたらすソリューションの提供が急激に伸びています。例えばスマホとのインターフェイスなどです。したがって、そういうものをいち早く察知して、対応していかなければならないと思います。

そんなことを考えながら、ぼくにとっての一番の課題は早く後任を育てあげること。自分がやったほうが早い、おれについて来い、とやってきたわけですが、今からでも、それを譲る、後輩に経験させる勇気をもっともっと持つべきだと、自分に言い聞かせているところです(笑)。

【取材後記】

「父親、教授、上司等々…。幸運にも、人生の大きな節目には必ず的確なアドバイスをいただきました。妻にも本当にラッキーな人ね、と言われます」と川嶋さん。人の幸運はその人の努力に見合うものです。そんな努力が垣間見えるお話をたっぷり伺いましたが、ほんの一部しか掲載できないのが残念です。

平成28年度 表彰学生

日本大学による表彰学生

学長賞

環境安全工学科 4年生

文 鉦太 (ブン ゲンタ)

優等賞 (44名)

機 械 工 学 科	4年生	越 祐 人	応用分子化学科	4年生	今 関 哲 也
//	4年生	田 中 健 太	//	4年生	遠 田 葵
//	4年生	豊 島 誠 之	//	4年生	佐 藤 悠 太
//	4年生	林 田 悠 一	//	4年生	福 田 茉 優
//	4年生	山 崎 光 貴	//	4年生	前 田 若 奈
電 気 電 子 工 学 科	4年生	伊 藤 ヒ カ ル	マネジメント工学科	4年生	大 場 裕 之
//	4年生	荻 上 隼	//	4年生	小 笠 原 瑞 貴
//	4年生	加 瀬 裕 真	//	4年生	高 野 未 歩
//	4年生	真 保 優	//	4年生	西 澤 直 希
//	4年生	正 岡 寛 也	//	4年生	山 口 紗 舜
土 木 工 学 科	4年生	荒 井 啓 士	数理情報工学科	4年生	伊 藤 耕 輔
//	4年生	恩 田 祐 次	//	4年生	小 笠 原 亮 太
//	4年生	小 池 貴 徳	//	4年生	小 林 和 暉
//	4年生	田 沼 亮	//	4年生	樋 口 将 大
//	4年生	鳥 羽 紗 弥 香	環境安全工学科	4年生	大 森 真 央
//	4年生	富 田 詩 穂 子	//	4年生	齋 藤 良 隆
建 築 工 学 科	4年生	井 手 優 汰	//	4年生	宮 田 泰 成
//	4年生	内 山 秀 義	//	4年生	山 本 将 史
//	4年生	澁 谷 夏 海	創生デザイン学科	4年生	大 久 保 昂 洋
//	4年生	林 晴 佳	//	4年生	開 元 宏 樹
//	4年生	福 田 奎 也	//	4年生	鈴 木 瞭 人
//	4年生	宮 永 裕 也	//	4年生	吉 田 香 織

生産工学部による表彰学生

学部長賞・研究科長賞 (8名)

学術・文化部門 (1名)

数理情報工学専攻 M2 小野寺 勇哉

The 7th Thai Society of Mechanical Engineers International Conference of Mechanical Engineeringにおいて、11分野のセッションの中からそれぞれ最優秀論文賞が選ばれる。本論文はBiomechanics and Bioengineering部門のBest Paper Award(最優秀論文賞)を受賞。(総論文数253編、11分野中最優秀論文賞受賞者数各1編)

体育部門 (7名)

機械工学科 4年生 加末 匠

日本自動車連盟(JAF)が制定する国内トップレベルの『日本カート選手権』FS-125クラス(参加資格は国内A級以上のドライバーライセンスを所持するシニアドライバ)において、主要な成績を上げた。2013年第37回SLカートミーティング全国大会(主催:一般社団法人SLカートスポーツ機構)1位。2014年全日本カート選手権第2戦FS125クラス(JAF)第2位。2015年全日本カート選手権FS125部門東西統一競技会(JAF)第3位。2016年全日本カート選手権第1戦FS125部門第5位。

柔道部

土木工学科 4年生 今井 亮輔

平成27年6月28日に講道館で行われた第56回全日本理工科学生柔道優勝大会団体戦において優勝。

体育部門

建築工学科 4年生 中尾 友紀

平成27年6月28日に講道館で行われた第56回全日本理工科学生柔道優勝大会団体戦において優勝。

応用分子化学科 4年生 佐光 航

平成28年6月26日に講道館で行われた第57回全日本理工科学生柔道優勝大会個人戦(初段の部)において準優勝。

数理情報工学科 4年生 古山 俊輔

平成27年6月28日に講道館で行われた第56回全日本理工科学生柔道優勝大会団体戦において優勝。

環境安全工学科 4年生 橋谷 一樹

平成28年6月26日に講道館で行われた第57回全日本理工科学生柔道優勝大会団体戦において3位。

日本大学水上スキー部

マネジメント工学科 4年生 宮澤 怜希

平成28年9月2日～4日に秋田県大湯村水上スキー場で行われた第61回桂宮杯全日本学生水上スキー選手権大会(インターカレッジ)において3位。(大会全体応募者数181名、男子スラローム競技出場者数36名)

精励賞 (10名)

学術・文化部門 (7名)

機械工学専攻 M2 野澤 郁丸

2016年6月25日～26日に三重県津市で行われた日本人間工学会第57回大会において研究発表「加齢と精神的負担が自動車運転での安全確認に必要な視知覚機能に及ぼす影響」を行ったが、その内容が高く評価され優秀研究発表奨励賞を受賞した。該当者数169名、受賞者数は後日のため不明。

建築工学専攻 M2 大崎 広貴

学術会議に登録されている日本産業技術教育学会主催、第11回技術教育創造の世界(大学生版)発明・工夫作品コンテストにおいて、奨励賞を受賞(提出時の題名は『オイル豊富なコーヒー抽出キット』)。応募件数50件、学会長賞3件、特別賞7件、奨励賞12件のうち、奨励賞を獲得。

応用分子化学専攻 M2 加畑 真人

学術会議に登録されている日本産業技術教育学会主催、第11回技術教育創造の世界(大学生版)発明・工夫作品コンテストにおいて、奨励賞を受賞(提出時の題名は『オイル豊富なコーヒー抽出キット』)。応募件数50件、学会長賞3件、特別賞7件、奨励賞12件のうち、奨励賞を獲得。

応用分子化学科 4年生 長嶋 恭介

2016年10月13日、14日に日本大学工学部郡山キャンパスで開催された学術会議に登録の日本海水学会若手会主催、第3回海水・生活・化学連携シンポジウムにおいて、『高速液体クロマトグラフィーによる多量体Adiponectinの分別測定』の題目でポスター発表を行い、優秀ポスター賞を獲得した。ポスター発表31件、優秀ポスター賞4件。

マネジメント工学科 4年生 小串 一貴

平成28年9月15日、16日に開催された経営情報学会2016年秋季全国研究発表大会において「知識の探索がエゴネットワーク形成に与える影響ー江戸時代の遊学と藩校に関する実証研究ー」をポスター発表し、唯一学部生として学生優秀発表賞を受賞。(31件発表中6件)

数理情報工学専攻 M2 日下部 智亮

学術会議に登録されている日本産業技術教育学会主催、第11回技術教育創造の世界(大学生版)発明・工夫作品コンテストにおいて、奨励賞を受賞(提出時の題名は『オイル豊富なコーヒー抽出キット』)。応募件数50件、学会長賞3件、特別賞7件、奨励賞12件のうち、奨励賞を獲得。

数理情報工学専攻 M2 細川 裕貴

学術会議に登録されている日本産業技術教育学会主催、第11回技術教育創造の世界(大学生版)発明・工夫作品コンテストにおいて、奨励賞を受賞(提出時の題名は『オイル豊富なコーヒー抽出キット』)。応募件数50件、学会長賞3件、特別賞7件、奨励賞12件のうち、奨励賞を獲得。

体育部門 (1名)

ソフトテニス部

マネジメント工学科 4年生 田所 翼

平成28年度日本大学体育大会ソフトテニス競技会団体優勝

功労部門 (2名)

創生デザイン学科 4年生 木村 夢菜

平成27年度第24回桜泉祭実行委員会委員長

建築工学科 4年生 望月 雄馬

平成28年度生産工学部スポーツ大会実行委員会委員長

第9回 風力発電コンペ

第9回風力発電コンペ WINCOM2016は、平成28年11月6日(日)に26チームが参加して開催されました。参加者の皆さまありがとうございました。

今回の結果を発表いたします(氏名の敬称略)。

【発電量部門】

高校の部

最優秀賞 システム名称「SHIMOFUSA Wind-power type H ver. 菅澤君」
千葉県立下総高等学校
指導教員：中西 浩明 / 代表者：菅澤 雄大

優秀賞 システム名称「みどりの翼」
山形県立村山産業高等学校
指導教員：山科 尚史 / 代表者：三澤 謙介

優秀賞 システム名称「ヤマセ」
佐野日本大学高等学校
指導教員：宇津木 敏人 / 代表者：伊藤 成秀

デザイン賞 システム名称「Brand New Wind 2016」
足利工業大学附属高等学校
指導教員：西牧 宏之 / 代表者：小室 圭佑

デザイン賞 システム名称「ふうまこたろう」
千葉県立館山総合高等学校
指導教員：原川 侑平 / 代表者：浅沼 洸

アイデア賞 システム名称「新築工事ひねり王子」
山形県立山形工業高等学校
指導教員：逸見 健太、櫻井 晋弥 / 代表者：有路 幸司



オープン参加

優秀賞 システム名称「Schwert (シュベールト)」
日本大学生産工学部機械工学科 / 代表者：大鋸谷 悠太

日本大学生産工学部校友会賞 システム名称「ツインシュミット」
日本大学大学院生産工学研究科 / 代表者：阿部 翔一

アイデア賞 システム名称「SH タービン」
栃木じいじいズ / 代表者：橋田 榮夫

日本風力エネルギー学会賞 システム名称「YAMAKO-T-2016」
山形県立山形工業高等学校 / 代表者：吉田 幸宏

【エネルギー利用部門】

アイデア賞 システム名称「ナポレオン1号」
日本大学生産工学部機械工学科 / 代表者：重村 優介

※風力発電コンペは、生産工学部校友会から支援金を受けております。

2017 年度
キャンパスガイド
表紙デザインコンペ

2017年度版生産工学部キャンパスガイド表紙デザインの募集が、平成28年10月11日(火)から行われました。

応募作品は11月2日(水)から11月6日(日)まで39号館1階ギャラリーに展示され、応募作品30作品の中から、最優秀賞に建築工学科4年の山崎 海さんの作品が選出され、2017年度のキャンパスガイドの表紙として採用されました。また、下記の皆さんが各賞を受賞されました。

受賞名	作品名	製作者	所属学科(専攻)・学年
最優秀賞	n	山崎 海	建築工学科4年
優秀賞	「KATACHI」	町田 和也	創生デザイン学科4年
佳作	未来につなげるこのピース	櫻井 勇真	創生デザイン学科2年
佳作	安堵する未来	堀田 昌宏	建築工学科4年
佳作	SEISANKO CREATION!	日野 一貴	建築工学専攻1年
佳作	覚者	吉水 寛樹	創生デザイン学科2年
佳作	君たちが創り上げてく未来	山下 シロ	建築工学科4年
佳作	桜の輪	井手 優汰	建築工学科4年



受賞名	作品名	製作者	所属学科(専攻)・学年
校友会賞	“見える”	山崎 翼	建築工学専攻2年
佳作	新たな門出	古山 瑛美里	創生デザイン学科4年
佳作	Beginning Flag	安井 一輝	創生デザイン学科3年
佳作	色魅	小林 亮太	創生デザイン学科2年
佳作	あなたが思うよりずっと、あなたは美しい。	加藤 愛	創生デザイン学科2年
佳作	私たちが轍を創る	松枝 朝	建築工学科4年
佳作	idea	茂原 愛	建築工学科4年
佳作	Idea を世界へ	岡田 遼	建築工学専攻2年
佳作	それらはすべてミチシルベ	佐藤 耕介	建築工学科3年
佳作	abstract	高橋 祐太	建築工学科1年
佳作	飛翔	筒井 祥平	建築工学科4年
佳作	まだ見ぬ世界へ	福田 奎也	建築工学科4年
佳作	夢をかなえるアプリケーションソフト	照沼 翔平	建築工学専攻2年
佳作	For the Next Stage with You	涌井 優	電気電子工学科2年
佳作	将来へつなぐ歯車	西澤 優里	創生デザイン学科2年

※キャンパスガイド表紙デザインコンペは、生産工学部校友会から支援金を受けております。

平成29 年度行事予定

行 事	2～4 年次：津田沼校舎	1 年次：実校校舎	大学院	備 考
開 講 式	4月1日(土) [津田沼校舎]		4月1日(土)	
ガ イ ダ ン ス	4月3日(月)～7日(金) ※応化 国際化学技術者コース 2・3年 4/1(土) から	4月1日(土)～7日(金)	4月1日(土)	
入 学 式	4月8日(土)			日本武道館
定 期 健 康 診 断	4月10日(月)～4月13日(木)			
オ リ エ ン テ ー シ ョ ン	4月15日(土)～4月16日(日)			
父 母 懇 談 会 (春 季)	4月22日(土)			
大 学 院 説 明 会 (春 季)			4月22日(土)	
休 校 日	5月1日(月)、5月2日(火)			
ス ポ ー ツ 大 会	5月20日(土)			
女子中高生のためのキャンパスカフェ	6月25日(日)			
大学院入学試験(第1期)・学内推薦等			7月1日(土)	
オ ー プ ン キ ャ ン バ ス	7月16日(日)、8月5日(土)、8月6日(日)			
補 講	土曜日適宜実施			スポーツ大会等 他の行事のある日を除く
夏 季 休 業	8月7日(月)～9月13日(水) ※応用分子化学科1・2・3年のみ 9/12(火)まで		8月7日(土)～9月13日(水)	
前 期 追 試 験	9月7日(木)、8日(金)			
A O 入 学 試 験	9月9日(土)			
後 期 ガ イ ダ ン ス	9月14日(木) ※応用分子化学科1・2・3年のみ 9/13(水)、14(木)		9月14日(木)	
卒業式・修了式・学位記伝達式(9月)	9月28日(木)		9月28日(木)	
父母懇談会(秋季) 保護者向け就職説明会	9月30日(土) 津田沼キャンパス			10月14日(土) 地方別実施
大 学 院 説 明 会 (秋 季)			9月30日(土)	
創 立 記 念 日 の 休 日	10月4日(水)			休 校
編 入 学 試 験 (2 年 次 ・ 3 年 次)	10月7日(土)			
外国人留学生入学試験(第1期)	10月7日(土)		10月7日(土)	
帰 国 生 入 学 試 験	10月7日(土)			
校 友 子 女 入 学 試 験	10月7日(土)			
学 部 祭 (桜 泉 祭)	11月4日(土)、11月5日(日)			11/3(金) 準備日・ 11/6(月) 片付日
オ ー プ ン ラ ボ	11月5日(日)			
風力発電コンペ(WINCOM2017)	11月5日(日)			
指 定 校 制 推 薦 入 学 試 験	11月11日(土)			
提 携 校 推 薦 入 学 試 験	11月11日(土)			
保健体育審議会推薦入学試験	11月11日(土)			
トップアスリート推薦入学試験	11月11日(土)			
付 属 高 等 学 校 等 推 薦 入 学 試 験	11月12日(日)			
博 士 論 文 提 出 期 日			11月17日(金)	
一 般 入 試 対 策 講 座	11月19日(日)			
学 術 講 演 会	12月2日(土)			
公 募 制 推 薦 入 学 試 験	12月9日(土)			
事 業 継 承 者 等 推 薦 入 学 試 験	12月9日(土)			
大学院外国人留学生入学試験(第2期)			12月9日(土)	
冬 季 休 業	12月25日(月)～1月9日(火)			
補 講	土曜日適宜実施			入学試験、学部祭、学術講演会等 他の行事のある日を除く
大 学 入 試 セ ン タ ー 試 験	1月13日(土)、14日(日)			
修 士 論 文 概 要 (初 稿) 提 出 期 日			1月19日(金)	
一 般 入 学 試 験	N 1 方 式	2月1日(木)		
	A 1 方 式	2月2日(金)		
	A 2 方 式	2月9日(金)		
	A 3 方 式	2月19日(月)		
後 期 追 試 験	2月14日(水)、15日(木)			
修 士 論 文 提 出 期 日			2月20日(火)	
転 科 試 験 (2 年 次)	2月27日(火)			
外国人留学生入学試験(第2期)	3月3日(土)			
大 学 院 入 学 試 験 (第 2 期)			3月3日(土)	
卒 業 式 ・ 修 了 式 ・ 学 位 記 伝 達 式	3月25日(日)		3月25日(日)	日本武道館

個人情報の取扱い告知文

入学手続時及び在学中に収集する学生本人及び保証人の氏名、住所、生年月日及びその他の個人情報は、学籍・成績管理、教育、学生生活支援、学費の案内、図書館利用、就職支援等及びこれらの業務に付随する学生及び保証人への連絡・通知・掲示等、本大学の教育事業に必要な範囲で利用します。

また、これらの業務の一部を業者に委託する場合があります。この場合、当該業務の委託を受けた業者は、上記利用目的の達成に必要な範囲を超えて個人情報を利用することはありません。

なお、本大学では、学生への教育・指導をより適切に行うため、保証人に対して学生の学業成績及び出席状況等の開示並びに履修状況等についての相談を行う場合があります。

(問合せ先) 生産工学部教務課・学生課